

新聞を身近なものとしてとらえられる環境を目指して ～表現する力と言語活動の充実への取り組み～

指定校 1 年次 駒ヶ根市立 中沢小学校 清水 貴美子

1. 本校の NIE の現状

本校は、全校児童 117 名の小規模校である。2012 年度、NIE の研究指定校となり、学習に新聞を活用する機会を得た。本校の児童の実態としては、多くの家庭で新聞を購読しているが、新聞を毎日読む児童は少なく、「たまに新聞を見る」と答えた児童も、その中身は 4 コマ漫画やテレビ欄がほとんどで、記事を意識して読んでいる子はほとんどいない。つまり、新聞を手にする時の児童の興味・関心は、新聞記事にはほとんど向いていないと言える。また、家庭で新聞を購読していない児童にとっては、新聞は普段目にするのがない遠い存在になっていると思われる。

そこで実践 1 年目の今年は、上記のような子どもたちに、新聞を身近なものとして感じ、新聞のおもしろさやよさを実感させたいと考えた。そのために、①児童が日常的に新聞に触れることができる環境づくり ②「新聞が役に立った」「新聞はためになる」という実感が持てる学習場面づくりを指向実践することとした。職員にとっても新聞に興味を持ち、どんな学習場面でどのような取り入れ方ができるのかを考えるよい機会である。まずは、職員自身が楽しみながら新聞の活用を考えることを前提とし、目の前にいる子どもたちの学びの場面に、どう新聞を取り入れられるかを、各学年の実践によって探っていきたいと考えた。

2. NIE 実践のねらい

高めたい子どもの力

- ①自分の考えを持ち、自ら表現する力
- ②社会事象に興味・関心を持つ（視野を広げる）力

育てたい子どもの姿

- ①自分の意見を持ち、表現できる子ども
- ②社会に目を向けることができる子ども
- ③情報を活用できる子ども（探す・選ぶ・読み取る・利用する）

上記 2 つのねらいを達成するために、本年度は、新聞をより身近なものとしてとらえられる環境づくりに重点を置きながら、「新聞づくり」の授業に取り組んできた。

3. NIE 実践の概要

(1) 児童が日常的に新聞に触れることができる環境づくり

① 24年度の新聞提供状況

新聞名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
朝日小学生	○	○	○	○			
毎日小学生	○	○	○	○			
読売新聞	○	○	○	○			
日経新聞	○		○		○	○	
産経新聞	○		○		○	○	
信濃毎日新聞	○		○		○	○	
長野日報	○		○		○	○	
中日新聞	○		○		○	○	

※上記とは別に、学校として信濃毎日新聞と長野日報を年間購読。

②届けられた新聞を有効活用することを考え、廊下を中心に校内各所へ掲示した。

- ・全職員が交代で、児童用連絡黒板への新聞記事掲示（およそ1週間で貼り替え）
- ・子ども新聞（毎日・朝日の2社）と長野日報を、毎日読めるように児童玄関机上に展示。
- ・マルチパーパス多目的スペース前の廊下掲示板に、8社の新聞1面を、掲示。（毎日）
- ・児童や職員が感想を書き込めるように、ノートや感想用紙を新聞横に置く。
- ・「まちがいさがし」「パズル」など、クイズ的要素の高い紙面を切り取り、校内各所に掲示。

(2) 「新聞が役に立った」「新聞はためになる」という実感が持てる学習場面づくり

①授業における新聞の活用

「無理のない範囲で」「出来るところから」と考えて、全学年全職員が取り組んだ。授業での新聞活用を学年ごと挙げてみると以下のようなものである。

- 1年・・・新聞を使った遊び、パンダの赤ちゃんの写真集め、ひらがな・カタカナ・漢字探し、気に入った写真や4コマ漫画のスクラップ
- 2年・・・国語の学習で、新聞記事を切り抜いてコメントを付ける活動
- 3年・・・体育での活用、国語で見出し学習、担任による新聞記事の紹介、社会科学学習における地域探検、社会科学見学をまとめた壁新聞作り
- 4年・・・ホテルの養殖と河川清掃についてまとめた「ホテル新聞」作り
- 5年・・・臨海学習の新聞作り、日常的なスクラップ集の作成
- 6年・・・修学旅行の新聞作り、見出しの学習、国語「平和について考える」、日常的なスクラップ集の作成 など

- ②スクラップブックの活用・・・全校児童に配布
- ③子ども新聞コンクールへの応募・・・夏休み中の課題
- ④N I E 推進協議会の方による、出前授業要請。



4. NIE 実践の内容

(1) 3年生の実践

- ①教科 社会科
- ②小単元名 「壁新聞を作ろう」
- ③単元の展開



○学習活動 ・児童の反応	指導【評価】	時	資料
○見学してわかったことをまとめよう。 ・見学メモにいっぱい書いたな。 ・そういえば、市場の冷凍庫はものすごく大きくて寒かったな。	・自分の作った見学メモをもとに、仕事の特色や働く人の工夫についてまとめている。	1	見学メモ 企業パンフレット
○グループ毎、見学してわかったことを、発表し合い、仕事の特色や働く人の工夫についてまとめなおそう。 ○壁新聞で知らせたい内容に順位をつけ書く内容を決め、記事の分担をしよう。 ・～さんは、ぼくが気づかなかったラッピングの機械の働きを見ていたんだな。そんなことができていたんだ。	・仕事の特色や働く人の工夫について、友だちのまとめを聞くことにより、新たに多くの視点でとらえることができる。	1	個々のまとめ 新聞資料
○自分のまとめをもとに、友だちのまとめや再質問などを通して、自分の分担場所の仕事や働く人々の工夫について記事を書こう。 ・がんばって記事を書こう。 ・分担されたけど、記事ってどう書いたらいいんだろう。困ったな。	・自分の分担の部分について、お家の人により詳しく、わかりやすく伝えることができるように、調べることができる。 ・壁新聞の作り方がわかる。	2	個々のまとめ 見学場所への連絡方法 原稿用紙 新聞資料
○新聞を作るプロに、壁新聞の作り方、記事の書き方を教えてもらおう！（出前授業） ・新聞って、一番大切な記事を大きく、一番上に書くようにするんだ。 ・記事を書くときは、5 W 1 H を入れて内容をわかりやすくするといいんだな。 ・書きたいことを順番に短い文で書いておいて、つなげると書けるんだ。 ・～さんのように、びっくりしたことや初めて知ったことを書くといい記事になるんだ。		2	

<p>○教わったことを思い出しながら、記事の分担をやりなおし、お家の人にわかってもらえる記事を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お家の人に、ぱっと見て、社会見学のことをよくわかってもらえる新聞を作るぞ。 ・記事にするには、もう一回工場の人に質問させてもらう必要があるな。 ・～について、友だちの見学メモを見せてもらおう。 <p>○自分の書いた記事を校正し、清書しよう。 (国語 2時間)</p> <p>○それぞれが作った記事を合わせ、壁新聞に仕上げよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた物を、観点に基づき記事にまとめることができる。 	<p>4</p> <p>1</p>	<p>壁新聞用 割り付け 用紙 原稿用紙</p> <p>記事用ポ イント書 き出し用 紙 記事</p>
<p>○壁新聞を見てもらうとき、一番に目がいく見出しをお家の人に興味を持ってもらえるように考えよう(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10文字くらいがいいんだよな。 ・何が書いてあるのか思わず読みたくなる見出し作るぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の記事を読み、それぞれに仕事の特色や働く人々の工夫をお家の人に読んでもらえるような見出しを考えることができる。 	<p>1</p>	<p>個々の記事とそのコピー見出し資料集。新聞資料</p>
<p>○壁新聞を発表し合い、自分たちの生活に関わる人々の仕事や工夫を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北川製菓では、夏は50度を超えるような場所で、食べてくれる人のことを考えてお菓子を作ってくれているんだな ・ベルシャインでは、お客さんに1円でも安く売れるように、機械化を進めているんだな。 ・すずらんハウスでは仕事の3分の2が安全のために行う仕事なんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの分担された場所について、仕事の特色や働く人の工夫についてまとめて発表できる。 ・他班の発表を聞き、その場所の仕事の特色や働く人の工夫についてノートにまとめることができる。 	<p>2</p>	<p>壁新聞 記録ノート</p>

④授業の実際

ア 主眼・・・市場やお店、工場で働く人々の仕事や工夫を記事にまとめてきた子どもたちが、グループ毎お互いの記事を読み合い話し合う活動を通して、自分たちが伝えなければならない記事のポイントに気づき、お家の人を読みたくなるような見出しに考えることができる。

イ 指導上の留意したこと

- ・子どもたちが、友だちの記事の内容をしっかりと見て見出しを考えることができるように、グループの人数分記事と、記事を書くためのメモをコピーして、手元に置いて話し合えるよう

にした。

- ・見出し作りの話し合いの参考にできるように、見出しを考える学習をした資料や子ども新聞を用意していつでも見ることができるようにした。

ウ 展開

段階	○学習活動・児童の反応	評価	時間	資料
問	○学習問題について話し合う。		5	壁新聞作りの計画記事と記事メモ
題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習問題】お家の人を読みたくなる記事にするには、どんな見出しにしたらいいのだろう。</p> </div>			
把	<ul style="list-style-type: none"> ・パッと見ておもしろそうと思う短い言葉の見出し。 ・びっくりしたことや初めて知ったことが伝わるものなら、記事を読んでみたくなると思う。 ・記事にどんなことが書いてあるか、ちゃんと伝わる見出しでないといけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の人に読んでもらえるには、どのような見出しにすべきかを個人個人が考え、見通しを持つことが出来た。 		
握	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】社会見学に行つて、びっくりしたことや初めて知ったことが伝わり、パッと見ておもしろそうと思うような見出しを考えよう。</p> </div>		25	
課	○グループ毎、それぞれの記事に見出しをつけよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字数や接続語などを意識しながらおもしろそうな見出しを子ども同士で考え、深め合う姿が見られた。 		
題	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの書いた記事の見出しは、「頭だけで4kgになるまぐろ」としたらどうかな。→「13文字あるからもうちょっと短い方がいいんじゃない？」→「『だけ』をとって…」→「頭が4kgあるマグロ」で10文字。これに決定。←「伝えたかった大事なことはいつている？」→最初の方がよかったかも…。 ・ぼくは「もやしの作り方」を見出しにしたけどどうですか。→「それだとびっくりしたことがわからないけど何に驚いたの？」→「暗いところで作っていたのを初めて知った。」→「それじゃ『暗いところでもやしを作る』かな」→「『を』を入れないように『暗いところで作るもやし』に順番変えたらどうかな。」 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>びっくりしたことや初めて知ったことが伝わる、読んでみたいと思える見出しを考えることができたか。</p> </div>		
の				
追				
究				
整	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>それぞれが考えた見出しを聞いて、「いいです」で終わった。アドバイスをもらっても「わたしはこれがいい」と自分の考えに固執してしまい話し合いが止まってしまうたり、話し合いが子どもだけでは成立しないグループが出た。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えを明確に持ち、伝えたいことを表現する活動になったが、語彙不足で活動が滞る場面が気になった。 	12	
理				
・				

発 展	○今日つけた見出しを発表して、感想を聞いてみましょう。 「時間が足りなくてできなかった。」 「～ちゃんが、いろいろ言っても意見を変えてくれなくて困ってしまった。」 →「この次の時間、うまくいった班のやり方を聞いて、もう少し見出しを考えてみましょう。	・今日の反省をもとに活動が保証されると知って子どもたちは安心したようだった。次は基本的な見出しを作る方法を確認して活動させてみたい。	3
--------	---	--	---

エ 授業を振り返って

・授業を終えて仕上がった新聞を見て、子どもたちは「すごい、前と全然違う。」「見やすい！（本物の）新聞みたい。」と自分たちの作った新聞にとっても満足し、喜んでいた。その後、社会で『古い物調べ』をしたときも「新聞にまとめたい」と自分たちの調べたことを新聞にまとめたがるなど、新聞作りに自信を持つ様子が見られた。



・子どもたちが考えた見出しが、本時の学習課題である「びっくりしたこと」「おもしろい」「初めて知ったこと」を伝えることができたか疑問が残った。見出しの重要性や意義などを明確にし、見出しを作る基本的な手順を明記した学習カードを利用するなど、子どもたちの活動の拠り所となるものが必要だった。

・今回のように、前もって個々に見出しをつけてしまうと、後から書き直すことが難しくなるので、事前に見出しを考えず、お互いの記事をじっくり読み合った上で付箋を用いて案を出し合ったり、考えた見出しを作りかけの壁新聞に貼ってみたりする等の活動の流れにすれば、グループの中に話し合いやすい雰囲気生まれ、共同で新聞を作り上げることができたのではないかと考えられる。



(2) 6年生の実践

①教科 総合的な学習の時間・・・ドリルの時間に実施

②単元名 「見出しをつけよう」（新聞に親しもう）

③ねらい ・見出しに関心を持ち、見出しの効果を知る。

・記事の内容を要約し、見出しをつけることが出来る。

④授業を振り返って

・5W1Hをワークシートに記入することで、自然と記事の内容をつかむことが出来る。HOWの部分が難しいが、回数を重ねる毎に読解力が向上している。またつかんだ内容をもとにして文章をつないだり、言葉を付け足したりしながら、新聞記事を要約した文章作りに取り組む事で表現力の向上も期待できる。さらに、自分の考えた見出しが実際の新聞の見出しと比べてどうか、というところも子どもたちが興味を持って取り組む一因になっている。

・慣れてくれば20分程度、ドリルの時間や授業の導入で取り組むことが可能であり、子どもたちが集中して取り組むことが出来た。時間を取りやすいという利点もある。

(3) 1年生の実践

①教科 国語

②小単元名 「しんぶんから見つけよう」

③ねらい ・新聞から習った文字を探ることが出来る。

・気に入った写真を切り抜き、感じたことを友だちに伝えることが出来る。

④授業を振り返って

・文字探しは、喜んで取り組んでいた。ただし、見つかりにくい文字もあるので、全員が同じ紙面を使ったり、「大きい文字を探そう」と視点を変えて取り組ませたりしてもよかった。

・写真を切り抜く際、どこを切ったらいいか迷う子が多かった。はじめは写真のみの切り抜きだったが、少しずつ記事にも目が向くようになってきているので、写真と記事を併せて切り抜くことが出来るよう、切る前に赤鉛筆で線を引くよう指導していきたい。



5. 実践のまとめ

～高めたい子どもの力に関わって～

①3年生の授業を通して見ると、子どもたちは学習のまとめとして壁新聞作りをすることにとっても興味関心を持って取り組む姿が見られた。1学期の地域探検後に作った壁新聞は、子どもたちがグループごと自由に考えて作ったものだが、2学期の社会見学のみまとめとして壁新聞を作る際には、お家の人に伝えたいという相手意識が強くなり、「記事ってどうやって書いたらいいんだろう」と書き方に悩む。そして、「新聞を作っている人に聞けばいい」と、出前授業を受けることとなった。それにより、子どもたちは新聞を作るには、いくつかのポイントや手順があることを知った。まずは「見てきたものの様子」を書き出し、その後に「自分の感想」を書くことで、苦手としていた記事作りに意欲的に取り組めるようになった。3人グループで記事を分担し、「自分はここを書きたい」「こんな見出しにしたい」と児童ひとりひとりが自分の思いを伝えたいという気持ちを持ちながら取り組む姿が見られた。本時の見出しを考える場面においても、自分の考えた見出しをそのまま使いたいと思う気持ちが強くグループ内で検討し合うのは難しかったが、「自分なりの考えを持ち、表現したい」というこだわりを持って活動する姿が見られたことは、新聞を題材にした成果であったと考える。

お家の人へ伝えたいという「相手意識」と、見学してきたことを知ってほしいという「目的意識」が強くなったことで、新聞作りに面白さを感じ、より意欲的に進められたと考えられる。

今後の課題としては、自分の考えを友だちとのすり合わせの中で、さらに深めることができるような学び合いをめざしていきたい。

②新聞が常に校内に掲示されている環境づくりを行ってきたが、ただ掲示されているだけでは児童が新聞に足を止めて見ることは少ない。意識的な教師側の声かけや提示がある程度必要であることが分かった。

それでも、新聞の掲示と共にいつでも自由に感想を書き込めるようにしたことで、職員も児童も感想をお互いに見合う楽しさが出来た。今後は感想を全校に伝える方法などを工夫しながら継続して行っていきたい。

③スクラップブックを配布し、学年に応じた活用を呼びかけた。授業や家庭学習でスクラップに取り組み、子どもたちが新聞を意識的に手に取る機会が増えた。6年生の実践に見られるように、ドリルの時間に新聞を活用するなど、短い時間で気軽に新聞に触れることを教師が意識することで、子どもたちが新聞に親しむ機会が増え、少しずつではあるが社会事象に目を向けるきっかけとなっている。

また新聞スクラップに取り組むとき、発達段階に応じた視点や課題を与えると、新聞から学ぶことが増えることもわかってきた。ただ感想を書いていくだけの新聞スクラップではもったいない。例えば、辞書を使ってわからない言葉を調べる、読めない漢字を調べるなどの取り組みでもよい。他にも記事を要約する、記事の中から外来語や熟語を探す、たとえの表現を探すなどの取り組みも考えられる。国語や社会、理科などで学習したことと新聞記事を結びつけることで、より子どもたちの学びは深まっていく。さらにそれを持ち寄り、発表し合えば自分の知らない世界や言葉が広がり、お互いに学び合う機会となる。

④新聞作りに関しては、N I E推進協議会の方による出前授業を3, 5, 6年で実施した。これによって、子どもたちは、どのように記事を書けばいいのか、レイアウトはどうしたらいいのか等、具体的な手順がはっきりし、新聞づくりの見通しを持つことが出来た。今年、子ども新聞コンクールへの応募は校内で21点あったが、今後も新聞づくりを授業に取り入れていくことを考えると、新聞づくりの基礎的知識を見童だけでなく、職員も身につけることが必要であることを痛感した。

6. 次年度の取り組みへの課題

本校の学校目標にある「考える」（自分の考えを持ち、しっかり発表する）を達成するために、楽しい授業わかる授業の工夫を行ってきた。N I Eの授業を全校体制で取り組むことで、教職員の授業力の向上と子どもたちの求めて学ぶ姿をいっそう高めていきたいと考えている。

<信毎の学習シートの活用>

本年度は、意識して新聞を見たり、授業で新聞を作る活動をしたりすることが多かった。そのため、新聞に親しむ機会をつくることが出来たが、授業において、新聞記事を活用して社会事象に目を向けたり、情報を探すこと選ぶことなどがほとんど出来なかった。次年度は、信毎の学習シートを利用し、各学年各教科において、コミュニケーション能力（処理・伝達など）の向上を目指した実践の蓄積を行い、公開に臨みたい。

<言語活動の充実>

児童に不足している力として、自己表現力が挙げられる。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれに記録、要約、説明、論述といった言語活動の充実を図ることで、他者とのコミュニケーション能力を育てていきたいと考えている。新聞からは豊かな表現力、構成力などを学びたい。子どもたちの語彙や表現力を増やしていくことも自己表現力につながると考える。そのために特定の教科に限らず、新聞をすべての教育活動の中で活用しながら、研究を深めていきたい。